

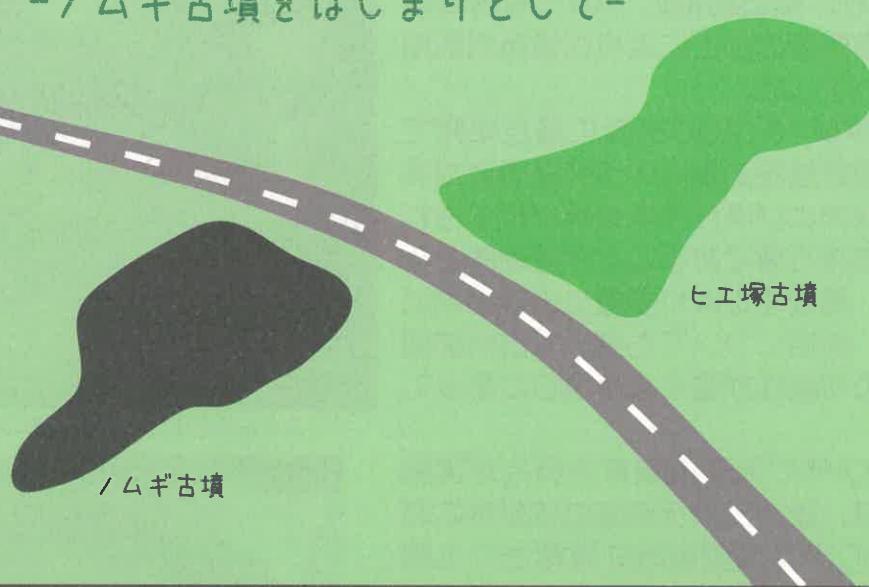
天理市埋蔵文化財センターだより

Vol.10

特集 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』

大和(おおやまと)の前方後方墳

-ノムギ古墳をはじめとして-



☆夏の文化財展

『発掘の現場から

-地下に眠る天理の昔々-』

大和(おおやまと)の前方後方墳
平成22(2010)年8月18日(水)~29日(日)

天理市文化センター

1階展示ホールにて

※23日(月)は休館

☆文化財講演会と展示解説

8月22日(日)午後2時から
1階展示ホールにて

天理市教育委員会文化財課では、市内遺跡の発掘調査を実施して多くの成果を得てきました。そうして出土した遺物や知見の一部は平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、短い期間ですが少しでも市民の皆さんの中に触れるようにと努めています。

今回の「センターだより」では、全国的に見ても古い時期に形成された古墳群として知られ、天理市を代表する遺跡の一つでもある大和(おおやまと)古墳群についての調査成果のうち、最古の前方後方墳とされるノムギ古墳をはじめとして周辺の同じくたちをしたいくつかの古墳についても紹介することにします。

■大和（おおやまと）古墳群の前方後方墳 -ノムギ古墳をはじまりとして-

ノムギ古墳は、天理市南部の萱生町と佐保庄町にまたがって所在し、大和古墳群の最北端に位置する全長63mの前方後方墳です。東側に近接するヒ工塚古墳とともに龍王山から西へ延びる尾根筋上に立地しています。

昭和52(1977)年の奈良県立橿原考古学研究所による墳丘測量調査では全長63m、後円部径40mの前方後円墳と考えられていましたが、その後の平成8(1996)年に古墳北側で実施された発掘調査において、ほぼ直角に曲がる周濠北東隅部分を検出したことにより墳形が前方後方墳となる可能性が高まり、築造時期についても円筒埴輪・鰐付き円筒埴輪等の出土により古墳時代前期後半頃とされていました。

近年になり、平成15(2003)年に墳丘東側で県道天理環状線道路建設工事に伴う発掘調査が実施され、周濠外縁および墳丘の南東隅が検出されたことから、前方後方墳であることが確定的となりました。また、周濠埋土より多量の古墳出現期の土器が出土し、時期についても遡って古墳前期初頭の古墳である可能性が強くなり今日に至っています。

平成22(2010)年に天理市教育委員会が実施した発掘調査では、後方部墳丘南側の休耕地において平成15(2003)年度調査時に確認された周濠の延長部を確認する目的で作業を進め、周濠肩部の輪郭が不明瞭でしたが、墳丘側に緩く傾斜して堆積した周濠埋土を検出しました。また、墳丘側から周濠中央部にかけて、底面直上に拳大から人頭大以上の大きさの多量の転落石の集積が見られ、これまでにノムギ古墳では未確認であった葺石の存在が考えされました。

出土遺物では、周濠埋土より古墳時代前期初頭から古墳時代後期にかけての土師器、須恵器等の土器片が出土し、いずれも周濠底面付近にまで含まれていたことから周濠埋没までの時期幅を反映するものと考えられました。

現在までに、大和古墳群ではノムギ古墳を含めて全部で5基の前方後方墳が確認されていますが、ノムギ古墳がこの中でも一番最初に築造された可能性が高く、全国的に見ても最古の大型前方後方墳であることが考えられています。また大和古墳群での最初の前方後方墳となり、その後の展開を考えるうえでも重要な古墳となります。



ノムギ古墳(左)と隣接する前方後円墳(ヒ工塚古墳:右)



ノムギ古墳と平成22(2010)年の天理市教委調査区



墳丘裾付近で検出された転落礫石



周濠中央付近で検出された礫石と記録作業風景



大和古墳群の古墳分布と前方後方墳

古墳名	墳形	墳長(m)	周濠	段塀	葺石	特殊器台	円筒埴輪箱	底部穿孔二重口縁壺	埋葬施設		副葬品	発見年次	報告
									網	屏風	刀劍	漆器	
1 クラ塚	円墳	40											
2 ピ工塚	前方後円墳	125	△	△	△								
3 ノムチ	前方後方墳	63	○		○								1996 福岡研2006
4 波多子塚	前方後方墳	145	○	△	○	△	○		豊穴石室				1998 天理市教委2003
5 マバカ	前方後円墳	74	○		△								2002
6 馬口山	前方後円墳	110	△	△	△	△	△						
7 星塚	前方後方墳	60											
8 西ノ山	円墳	35	△	△									1990 天理市教委1991
9 下池山	前方後方墳	120	△	○	○			△	豊穴石室	○	○	○	1995 1996 福岡研1997
10 葉塚	前方後円墳	120			△	△							1976
11 フサギ塚	前方後方墳	110	△	△	△								
12 平塚	円墳	—	54										
13 矢矧塚	前方後円墳	102											
14 弁天塚	前方後円墳	70											
15 東殿塚	前方後円墳	150	○	○	○	○	○	○					1997 天理市教委2000
16 西殿塚	前方後円墳	219	○	○	○	○	○	○					1993 天理市教委2000
17 火矢塚	前方後円墳	49											
18 煙雞山	前方後円墳	110	△	△	△		○		豊穴石室				前方部 1996
19 中山大塚	前方後円墳	120	○	○	○	○	○		豊穴石室	○	○	○	1993 1994 福岡研1996
20 小岳寺塚	前方後円墳	45											
a マバカ西	前方後方墳	分	○	△	○	○							2002 天理市教委2005



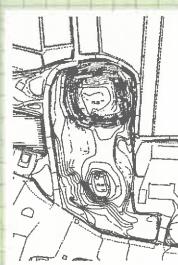
波多子塚古墳



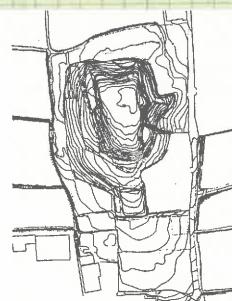
下池山古墳



マバカ西古墳



星塚古墳



フサギ塚古墳

波多子塚古墳は天理市萱生町ハタゴに所在する前方部が異常に長い特異な形をした前方後方墳です。全長約140mの規模を持ち、初期の埴輪をもつことで知られていました。平成10(1998)年に実施された発掘調査の結果、墳丘裾の葺石と周濠の存在がわかりました。築造時期については古墳前期初頭と考えられています。

下池山古墳は全長120mの前方後方墳です。平成7～8(1995～96)年におこなわれた発掘調査で、後方部の豊穴式石室と墳丘の様子が明らかになりました。墳丘は後方部西側が3段、東側が2段、前方部が2段以上の築成で、全面が葺石で覆われています。墳丘からは埴輪は出土していないので、埴輪を持たない古墳だったと言えます。古墳前期前半頃の築造と思われます。

マバカ西古墳は、平成14(2002)年にマバカ古墳の西側で実施した発掘調査の際に偶然発見された古墳痕跡です。墳丘は後世の開墾により古くに削平されていますが、周濠からは底部穿孔二重口縁壺や埴輪片、葺石石材などが出土しています。周濠のかたちから全長50mに満たない小規模な前方後方墳になるとみられ、土器と埴輪から古墳前期前半頃の築造と考えられます。

大和古墳群には他にも大和神社内にある星塚古墳やフサギ塚古墳などの前方後方墳が存在しますが、発掘調査による墳形や遺存状況の確認がおこなわれておらず、詳細は不明なままであります。どちらも現状のかたちが特異なため、どのような意義があるのか今後の調査が期待される古墳であると言えます。

出動！発掘現場レポート!!

平成21年度下半期の調査

天理市教育委員会は平成21(2009)年度下半期に発掘調査を3件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■小路遺跡第3次

市道北大路線建設に伴い調査をおこないました。古墳時代中期後半～後期を中心とする多数の遺構を検出し、古墳時代集落域の広がりを示す手がかりが得られました。なかでも古墳時代後期に造られた井戸からは多量の土器が出土しました。井戸枠には建物から転用したと思われる扉などの建築材が使用されていました。

■ノムギ古墳

大和古墳群基礎調査の一環として、ノムギ古墳の範囲確認調査をおこないました。調査では墳丘南側の周濠が見つかり、ノムギ古墳が「前方後方墳」であることが確定的になりました。また、墳丘に葺石が存在した可能性もでてきました。調査の詳細は今回のセンターだより誌面で紹介しています。

■山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査

土地区画整理事業に伴い田部町内で発掘調査をおこないました。調査では川の跡を検出し、縄文時代晚期～古墳時代前期の土器が見つかりました。調査地近辺で同時期の遺跡は確認されておらず、近くに未発見の遺跡が眠っている可能性が浮上しました。区画整理対象地内については、今後も発掘調査を進めていく予定です。

平成21年度の調査成果は
今年冬の文化財展で
展示するよ！



市役所1階市民ホール 写真展示のおしらせ

市役所1階市民ホールにて写真パネルの展示をおこないます。

テーマ：『大和古墳群における発掘調査の歩み』

『姉妹都市韓国ソサン市の文化財』

期 間：平成22(2010)年8月17日(火)～8月31日(火)

※土曜日、日曜日は閉庁しています。

「奈良県遺跡地図」が変わりました

平成22(2010)年4月1日付で奈良県遺跡地図が改訂されました。市内でも、遺跡の範囲に変更があります。詳しくはお問い合わせください。

〔問い合わせ先〕天理市教育委員会文化財課 Tel・Fax 0743-65-5720

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.11は、平成22年冬発行予定です。
お楽しみに！！



■平成21年度下半期の調査遺跡



■小路遺跡第3次
第1調査区（西から）



■小路遺跡第3次
井戸枠に転用された扉



■山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査
北調査区（左が北）

発行◆天理市教育委員会 文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町320

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆富光コピー（株）